

Principal Correspondence

チャンスは怠け者には訪れない客？

当校ではヴィクトリアホールの東側の壁に下記の文字を掲げています。



If you can dream it, you can do it.
All our dreams can come true –
if we have the courage to pursue them.

(あなたが夢見る限りそれは叶う。全ての夢はそれを追い求める勇気を持たば実現する。)

《ウォルト・ディズニーの言葉》

私は、人間の人生には等しく何回か、チャンスが与えられていると思います。それをチャンスと気づくか、それをつかめるか否かで、人生の方向は決まるのです。

多くの発見をなしたある天才の言葉に「ひらめきとは、怠け者には決して訪れない客である。」というものがありました。こつこつと努力を積み重ねなければチャンスはつかめないのだ、という意味と理解しています。



偉大な大リーガーだったイチローも言っています。



「宝くじにあたるように、突然能力が降ってわいて、夢を実現できるわけではありません。」日々の鍛錬と努力、ひとつひとつの積み重ねであることは、誰もが知るところです。世の中、もちろん天才はまれですが、たとえ天才でなくとも、偉業を成し遂げた人は星の数ほどいます。その人を偉人といいます。共通しているのは、「夢を追い求める勇気(精神力)」と、「志(社会のため、人々のために)」そして日々「努力(あせらず、たゆまず)」でしょう。

偉人は一人では解決できない課題はチームで解決していきます。「指導力」が必要です。当校の「自立」「創造性」「リーダーシップ」の校訓は子どもたちが夢を叶えるための大事な資質です。

日々それらを育みながら、未来に役立つ人となりますように
リリーベール小学校は一人一人を応援していきます。

Principal Correspondence

発達障害と間違われる子どもたち

数年前から医学、教育、福祉、保健すべての分野で発達障害が注目されています。それはおそらく想像以上に有病率が高いこと(軽いものを含めると10パーセント?), 二つ目には、従来「大人になったら治る」と言われていたのですが、何割かの方々は大人になっても問題を抱えていることがわかってきたことが挙げられるでしょう。

発達障害は生まれつき、あるいは周産期の何らかの要因(遺伝、妊娠中や出産期の異常、新生児期の病気など)で脳の発達が損なわれ、本来であれば成長とともに身につくはずの言葉や、社会性、感情のコントロールなどが未成熟、アンバランスになることによって起こります。

ところで、{「発達障害」と間違われる子どもたち(成田奈緒子著・青春新書)}という本が売られています。「この13年間で発達障害と診断された子が13倍になっている! そんなはずはない!」というものです。

その原因は様々ですが、主に生活習慣の乱れ! 特に睡眠の不足が挙げられています。睡眠と覚醒のリズムを一定にすることは重要です。



また幼少期から暴力的、攻撃的なテレビやゲームをやらせすぎると脳波がおかしくなってきます。

幼少期にたっぷり愛されて、子どもたち同士で遊ぶ機会を多く持つ子どもはストレスに強く、トラウマになりにくいと言う結果もあるようです(福島学院大学大学院教授・星野仁彦講演より)。

今日から睡眠の量(幼児10時間, 小学生9時間, 中学生8時間が必要)を見直しましょう。そうすることにより大部分が軽減し、子どもを伸ばせることは、私たちの幼稚園・保育園・小学校と育脳保育の連携で、経験的に感じていることです。

